

巻頭言

やりたいことが山ほどある
We have much to accomplish!取締役（兼）専務執行役員
マイニング事業本部長森山 雅之
Masayuki Moriyama

『鉱山でやりたいことが、山ほどある』。これは、2017年Joy Global社を買収しKomatsu Mining Corp.を設立した際、新聞に掲載したキャッチコピーです。このフレーズは、イノベーションで成長を目指すコマツにとって、そしてイノベーションを推進する中核である開発部門にとってぴったりの言葉だと思っています。

『やりたいことが、山ほどある』のは、我々のお客さまにとっても同じこと。私が日頃接する鉱山会社のお客さまは鉱山運営に関して明確なビジョンをお持ちです。以前であれば、「トラック〇〇台、積込機△台購入したい。値段は？納期は？」とトランザクションを中心に多くの質問を受けたものでした。でも今は自分たちのビジョンを達成するために「コマツはどのように貢献してくれるのか？そのための技術ロードマップはどうなっているのか？」など、技術戦略と技術的方策の開示を要求されます。鉱山会社のビジョン、それは、「安全性と生産性の向上」「環境に配慮した持続可能な鉱山運営」というものであり、コマツは『自動化』『デジタル化』『電動化』によってそのビジョンを実現したいと考えています。

人を危険な場所から解放し、オペレーションの効率を上げるための無人運転や、遠隔操作などの『自動化』。オペレーションの改善箇所が見える化し、生産性を向上させるための『現場のデジタル化 (DATA ANALYTICS)』。排気ガスの削減やエネルギー回生など環境負荷を低減するための『電動化』。これらを具現化して行くには、ソフトウェアのアジャイル開発、バッテリーの開発やパワーマネジメントなど、新しい分野への挑戦が必要です。ただこれらの技術は、従来コマツが得意としてきた『すり合わせ技術』による車体やコンポーネントの開発とは異なる面があり、そのため、社内での独自開発だけではなく、外部技術を活用しなくてはなりません。ここで注意したいことは、安易に外部に頼るのではなく、開発設計者が問題解決のための全体プロセスを考案、さらにビジネスモデルを構築した上で、オープンイノベーションを進めることだと考えます。

新技術をプロダクトアウト的に提供するのではなく、お客様と直接対峙することで、お客様の困りごと（PAIN POINT）を理解し、その課題を技術的に解決する方策を提案すべきです。新しい技術・新しい開発手法を積極的に取り入れ、コマツらしい技術で問題解決する。それも、解決をドライブするのはコマツであるという、情熱と夢を持って、『山ほどある』やりたいことを着実に実行していきたいと思えます。